

# 米山新知事が初登庁 県民の生活と安全を守る仕事始め

柏崎刈羽原発の再稼働を認めないという県民の明確な審判の結果誕生した米山隆一知事が、25日県庁に初登庁しました。

県民の安全と日々の生活を守る仕事を、県民に推され県民の立場に立つ知事がこの日から本格的に始める記念すべき日となりました。

この日は、早朝から多くの市民が県庁前に集まり、米山新知事の初登庁を見守り、拍手と共に口々に励ましと期待の言葉をおくりました。そして、米山新

知事も、それらの言葉一つひとつに答えるように笑顔でうなずき、支えてきた市民の期待を背負う責任を果たそうとする決意を込めて、「皆さんとお約束したことを実現するためにいきます」と、元気に県庁に入りました。

なお、今回の県知事選挙の結果は、野党と市民が本気で力を合わせるならば、1プラス1が3にも4にもなり、政府・与党の激しい攻撃をはねかえして勝利することができることを示しました。その勝利は、新潟県に限らず、日本全国での野共闘の新たな発展を促し、「市民が本気に変われば政治は変えられる」とい

う、日本の政治の前途にも大きな希望をもたらす歴史的な出来事となりました。



## 日本共産党上越市議員団ニュース

No. 519 2016年10月30日

連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

# 総合博物館改修に5億5千万円

「高田開府450年に向けた次世代育成の場」とはいいますが…



## 市民の意見よく聞いた上での構想が大事

21日に行われた市議会文教経済委員会では、上越市総合博物館の回収事業の進捗状況が報告されました。

この事業は、高田公園内にある総合博物館を全面的にリニューアルして、「高田開府400年や上越市合併10周年を契機に、市民が地域の歴史を学べる歴史に特化した博物館として再生し、高田開府450年に向けた次世代育成の場となるよう改修を行なう」ものです。

(「内は市教委の説明より」  
計画によると、今年度行なう

実施設計をもとに、今年と来年で整備工事を行ない、2018年7月にオープンするとしています。(工事期間中の今年11月から開館までは休館)

改修後は、1階のラウンジ床面に上越市全体の航空写真を展開するほか、2階には春日山の時代から上越の近代までの通史を壁面に展示する計画です。また、展示室フロアには、模型やプロジェクト展示を展開する使ったトピック展示を展開するなどの工夫で、最後の都、巨大高田城、高田のまち歩きなどが体験できるようにすることとです。

そのほか、ユニバーサルデザインの視点から、エレベーターの増設、玄関の自動ドアの設置、トイレのバリアフリー化などをを行い、だれもが利用できる施設にするとしています。

さて、この改修の総費用は、現時点の見込みで約5億5650万円。

こうした文化施設は、心の豊かさを増すものとして、一般的には大変に貴重なものであり、使いやすく、市民だれもが学べ

る施設になれば、それにこしたことはありません。しかし、一方で「地方交付税の縮減による財政ひっ迫」を主張して、市民サービスの切り下げや市民の負担増を行ないながら、もう一方ではこうした大きな規模の事業を行なうというのはいかがなものでしょうか。貴重な文化施設が生かされるためにも、市民負担軽減や行政サービス拡充などの取り組みが並行して重視されることが必要です。

いずれにしても、市民のための施設ですから、市民の意見を把握し生かすことが求められます。これからでも遅くはありません。多くの市民に意見を求め、どんな博物館にしたいのか、どうすればより活用されるようになるのかなどの構想を練り上げていくことが大事です。

なお、現在総合博物館に併設されている小林古径美術館のスペースも新しい博物館に包含されます。そこで、小林古径記念美術館を、古径邸敷地内に新築する計画です。こちらは、総工費が約3億円。いずれもかなりの金額です。